

未来の芽



「苗木のホームステイ」の取り組みは、大きさも形も様々なクヌギ・コナラ・シラカシのドングリを植えるところから始まりました。

最初の春には元気に出揃った芽を間引きしてポット1つに1本の苗木を仕立て、夏の暑い時期も冬の寒い時期も苗木の様子を見ながら水やりを続け、まもなく3度目の春を迎えようとしています。苗木たちは、来春、植樹された後はそこから動くこともできず、雨や風、夏の暑さや冬の寒さに耐えながら、長い時間をかけて大きくなります。

ドングリを植えたときには小学校3年生だった子どもたちは、第61回全国植樹祭の大会開催のときには小学校6年生になります。足掛け3年の取り組みのなかで、穴が開いたドングリに虫が入っていること、ドングリから本当に芽が出ること、丈夫な苗を育てるために間引きをしたこと、大きな木の苗なのに少しずつしか成長しないこと、数少ない葉が虫に食べつくされること、小さな苗木でも紅葉すること、落葉して棒になっていても水やりが欠かせないことなど、様々な体験を通じて、何かを感じていてもらえたらと思います。

来春までの残り少ない期間ですが愛情をたっぷり受けた苗木たちがちょっと大人びた子どもたちに元気に送り出してもらえることを願っています。

このコーナーでは、県内の「苗木のホームステイ」の様子についてお伝えしてきました。(当コーナーは今回で終了します。)



間引きしたよ!



シラカシのドングリ



コナラの紅葉



コナラのドングリ



元気に育つ苗木たち!



クヌギのドングリ

かながわ未来の森 INFORMATION

カウントダウンセレモニーに沢山のご参加ありがとうございました!

平成21年10月10日(土)に、全国植樹祭のPRと機運を高めるために横浜赤レンガ倉庫イベント広場でカウントダウンセレモニーを開催しました。当日は、22,000人の方にご来場をいただきました。ご来場いただきまして皆さまどうもありがとうございました。



会場のステージでは、医師で登山家の今井通子氏による森づくりと私たちをテーマとした基調講演に引き続き、大学教授の畠山重篤氏、俳優の苅谷俊介氏、松沢県知事が加わって「みんなで育てよう緑の神奈川、緑の地球」をテーマとした「緑のトークセッション」、県知事、植樹祭会場市の市長等によるカウントダウンボードの除幕式などを行いました。

ステージの最後には、大会テーマソング「森へ行こう!」のお披露目ライブが行われ、白井貴子さんの歌に、フェリス音楽教室の生徒による合唱、相洋高等学校和太鼓部の生徒による演奏も加わり、華やかなライブとなりました。

(財)かながわトラストみどり財団のイベントについて

もり「森林づくりフォーラム」 ～みんなの参加でかながわの森林を育もう～の参加者募集!

森林の持つさまざまな働きを、十分に発揮できる健全な状態で未来の子ども達に引き継いでいくには、今こそ、みんなで力を合わせてかながわの森林を育てていく必要があります。そこで、森林づくりに関するフォーラムを次のとおり開催しますので、多くの皆様のご参加をお待ちしています。

日時 ● 平成22年2月13日(土) 13時30分～16時00分
場所 ● はまぎんホール「ヴィアマーレ」
(横浜市西区みなとみらい3-1-1 横浜銀行本店ビル1階)

内容 ● 講演
東京農業大学教授、美しい森林づくり全国推進会議事務局長 宮林茂幸氏
● 活動発表・パネルディスカッション
森林づくり等に取り組む企業、団体等(4団体程度)
参加資格 ● どなたでも参加できます。(乳幼児を除く)
定員等 ● 450名 参加費無料

申込方法
イベント名、参加者の住所、氏名、電話番号を、ハガキ、FAX、メールで下記まで(メチ平成22年1月29日)
〒220-0073 横浜市西区岡野2-12-20
(財)かながわトラストみどり財団 みどり森林課
電話:045(412)2255 FAX:045(412)2300
メール:midori@ktm.or.jp

お問い合わせはこちらまで

第61回全国植樹祭神奈川県実行委員会事務局
(神奈川県環境農政部森林課全国植樹祭推進室内)
〒231-8588 神奈川県横浜市中央区日本大通1
TEL:045-210-4373 FAX:045-210-8855
URL:<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/sinrin/zensyoku/index.html>

植樹祭 かながわ

全国植樹祭だより

かながわ未来の森

第8号

平成21年12月



いよいよサテライト会場スタート! 第61回 全国植樹祭 サテライト会場イベントが始まります!



湯河原会場

平成19年2月 湯河原梅林公園



横浜会場

平成21年6月 横浜市金沢区旧小柴貯油施設での植樹の様子

開催日時 平成22年2月6日(土) 10:00～16:00

開催場所 湯河原梅林公園及び桜郷地区
(足柄下郡湯河原町鍛冶屋ほか)

〈主な内容〉

湯河原梅林「梅の宴」の開幕式に併せて、サテライト会場イベントをスタート。四季を通じて自然と触れ合える場所で、代表者による植樹を実施。



交通アクセス JR東海道線「湯河原駅」より箱根登山バス15分「湯河原梅林(幕山公園)」下車

参加方法 参加自由 入園料:15歳以上(中学生を除く)…200円
※ただし、町民の方は「町民証」、町内の宿泊施設に宿泊される方は「湯河原梅林宿泊者入園券」で入園できます。

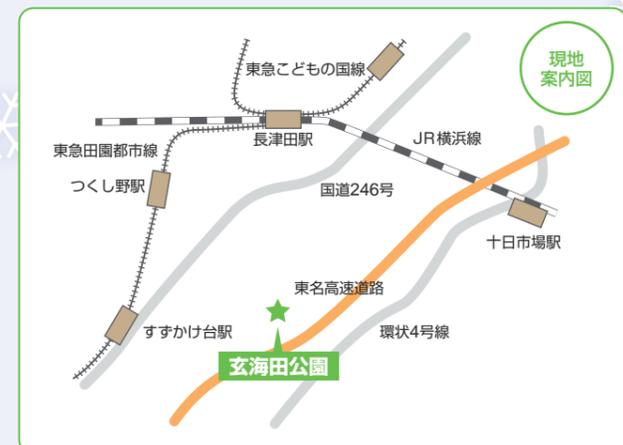
問い合わせ先 湯河原町観光課・農林水産課 電話:(0465)63-2111

開催日時 平成22年3月13日(土) 10:00～12:00

開催場所 玄海田公園
(横浜市緑区)

〈主な内容〉

「150万本植樹行動」、「開港150周年の森づくり」及び「緑区制40周年記念」として、市民参加による植樹を実施。市民の方から寄せられたドングリから育てた苗木を中心に植樹。



交通アクセス JR横浜線・東急田園都市線「長津田駅」より市営・神奈川中央交通バス20分、「玄海田」または「公園前」下車

参加方法 事前申込 対象は市内在住、在勤、在学の方
(申込方法は問い合わせ先へお問い合わせください。)

問い合わせ先 横浜市環境創造局みどりアップ推進課
電話:(045)671-3447



クールネッサンス
COOL RENAISSANCE
KANAGAWA

神奈川からCO2削減を呼びかけ「クール」な地球を取り戻そうという、地域から「地球復興」を目指す『クールネッサンス宣言』のロゴマーク



古紙配合率100%再生紙を使用しています

かながわ 森林 REPORT

第2回

育てよう!神奈川の森林 ~かながわ森林再生50年構想~

皆で力を合わせて、
恵み豊かな
神奈川の森林を
取り戻したいね!



かながわの森林は、丹沢大山をはじめ県内各地で荒廃が進んでいます。そこで、県では、「かながわ森林再生50年構想のもと、森林の再生に取り組んでいます。『かながわ森林再生50年構想』では、かながわの森林の再生の方向と目指す姿を地域特性に応じて示しています。50年後は、標高ごとに次のような森林を目指しています。

1 奥山

標高800メートル以上の「奥山」は、「フナ林など自然林を再生するゾーン」です。ここでは、フナやモミなどの標高の高い地域を象徴する多様な樹種と、階層を持った自然林を目指しています。

2 山地

標高300メートルから800メートルの「山地」は、「多様な生き物が共存するゾーン」と「木材資源を循環利用するゾーン」です。「多様な生き物が共存するゾーン」では、多様な生き物が生息する針葉樹が混生する広葉樹林を目指しています。また、林道から近い「木材資源を循環利用するゾーン」では、木を伐って、運び出し、使い、その後にも木を植えて育てるといふ、森林循環を取り戻した持続可能な人工林を目指しています。

3 里山

標高300メートル未満の「里山」では、「身近なみどりを継承し再生するゾーン」です。ここでは、①クヌギ、コナラ、クリなどの恵み豊かで親しみやすい落葉広葉樹林や、②四季を通じて、うっそうと茂る照葉樹林、③日が射し込み、風がとおる竹林など森の恵み豊かな広葉森林を目指しています。

県内の森林をこうした姿にしていけるため、*「広葉樹林の再生」、「人工林から混交林への転換」、「人工林の再生」といった取組を県民の皆さんと協働ですすめることとしています。恵み豊かな神奈川の森を未来につないでゆくため、共に力をあわせてかながわの森林を育てていきましょう!

かながわ森林再生50年構想

県内には、丹沢大山や箱根といった山々から、里山や市街地近郊の樹林地まで約9万5000ヘクタール、県土の40%近くを占める森林があります。今、この森林が、丹沢大山でのフナやモミの立ち枯れだけでなく、山地や里山まで県内各地で、手入れ不足などにより荒廃が進んでいます。

県では、前の世代から引き継いだ森林の様々な恵みを子や孫に手渡すため、50年かけて、皆さんとともに森林再生の取組を進めていきます。

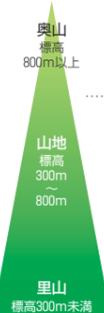
荒廃した森林の様子

フナ・モミの立ち枯れ(自然林)



表土の流出(人工林)

県民との協働による森林づくり(森林の再生)



- よみがえれ!フナの森**
シカに食べられないように柵などを作って、フナなどの若い木を大事に育てます。
- 防げ!表土の流出**
層位をして、森の中を明るくして、下草などがいっしょに生えるようにします。そして表土が流出しにくい森を作ります。
- 広葉樹が生え、さまざまな生き物が暮らす森**
えさとなる木の葉をつける広葉樹が生え、多くの生き物がくらす森に変えていきます。
- きって、植えて、育てる**
木をきって、運び出し、その後にも木を植えて育てます。
- 成長の森**
赤ちゃんの誕生を記念して苗木を植え、いつまでも愛着を持って親しんでもらえる森を育てます。
- 里山を守り、里山に親しむ**
落ち葉をかきしたり、笹やぶを刈り払うなどして、恵み豊かで親しみやすい広葉樹林に保ちます。
- タケノコがとれる竹林をつくる**
日がさしこんで、風が通り、タケノコが獲れるような竹林にします。

- ※「広葉樹林の再生」
植物を保護する柵などにより、若い樹木が育つのを守り、高い木や低い木などの多様な種類の広葉樹からなる自然林を育てていきます。
- 「人工林から混交林への転換」
林道から遠い針葉樹林(人工林)は間伐を繰り返し、自然力などを利用して、針葉樹と広葉樹が混じった、豊かな森林を育成していきます。
- 「人工林の再生」
林道に近い針葉樹林(人工林)は、間伐した木材を搬出して、木材資源として利用します。伐採した後は花粉の少ないスギやヒノキなどを植え、森林の資源循環を取り戻します。

「かながわ森林レポート」は、かながわの森林についての特集コーナーです。

My 森林物語

フォレスト21「さがみの森」

森林インストラクター 白鳥 元巳



2009年11月の相模の森

相模原市津久井の仙洞寺山(標高583m)にある国有林フォレスト21「さがみの森」が私の森林ボランティアのフィールドです。

1997年2月、関東森林管理局が山(国有林)を、(財)国土緑化推進機構が資金(緑の募金)を、NPO森づくりフォーラムが人(知恵と汗)を、三者が持てるものを提供しあい契約を結び、「市民が中心となり森の育て方、森の楽しみ方、森の手入れの仕方、など森について様々なことを学び新しい森を作り出す実験の場」を作りました。それがフォレスト

筆者のご紹介 1941年長野県伊那谷生まれ、森林インストラクター。大手化学会社の製品開発部門に勤務、現役時代より自然保護に傾倒。定年退職後「森林の再生と活用」をライフワークとし、ボランティアで山作業を又インタープリターとして活動していらっしゃいます。趣味はナチュラルクラフト、のこぎり演奏、竹とんぼ作りで、国際竹とんぼ協会会長を務めていらっしゃいます。また、第61回全国植樹祭神奈川県実行委員会の式典専門委員会委員としても活躍いただいております。



このコーナーでは、県内で森林を支える方々のインタビュー・活動等をお伝えしてきました。(当コーナーは今回で終了します。)

21「さがみの森」です。キーワードの「多様性」と「継続性」の基に多様な人々がこの森の活動を通して21世紀にふさわしい私達と森の新しい関係「森と共に暮らす社会」を見つけ出そうとしています。

以来12年間毎年1,000人余名のボランティアが山に入り、杉、檜の皆伐地の地ならしから取り組み杉、檜の針葉樹や、コナラ、トチ、ケヤキ、エンジュ、カエデ、オニグルミ、ヤマザクラ、ムクロジ、などかつて山に生えていたと思われる樹種を植え、天然更新の場所も設けました。下刈り、補植、枝打ち、林道補修、作業道作り、小屋作りなどを行いながら森を作ってきました杉や檜も間伐が必要な大きさまで育ててきました。当初少なかった鳥や昆虫等の姿が頻繁に見られるようになりました。猿、猪、鹿、兎、テン、狐、狸などがセンサーカメラに映っています。沢の水が多くなりました。少しづつではあり

ますが山全体が変わってきました。しかし森づくりは50~100年単位で考えなければならぬでしょう。今の姿が正しいものかは分かりませんが、継続していく必要があります。多くの方が一度フォレスト21「さがみの森」を訪れ森と係わって戴く事を願っております。



1997年3月 相模の森を皆伐して地ごしらえした状態

輝
kids

「自然の中のキャンプ」

日本ボーイスカウト神奈川連盟南足柄第1団
カブスカウト隊

いわた ひろのり いわた やすのり
岩田 広典・岩田 康典
(開成町立開成小学校4年生)



南足柄第一団では、毎年夏にキャンプに行って、いろいろな体験をします。

今年は、山梨県道志村へ行ってきました。道志村では、川遊び・山登り・マスのつかみ取りなどをやりました。特に

おもしろかったのは、山登りです。急な下りや上りがある、鳥ノ胸山に登りました。本当に高い山で、そのために、ロープを使いながら登ったりしたので、すごい大変で

した。でも、鳥ノ胸山の山頂でのごはんは、とてもおいしかったです。パードコールで鳥もよんだりしました。景色がとてもきれいでした。一本の木がいっぱい集まって、森ができているということを知りました。鳥ノ胸山は、本当に自然がいっぱいありました。

自然がいっぱいのところで活動することが、気持ちよくて、楽しいので、もっと自然がふえると良いです。



「野外活動は楽しみがいっぱい!」

たなか こうき
日本ボーイスカウト神奈川連盟秦野第1団カブ隊 田中 航貴
(秦野市立末広小学校4年生)

ぼくがボーイスカウトに入ったのは、お兄ちゃんとお姉ちゃんが入っていて、いっしょに活動に参加した時とても楽しそうだったからです。

ボーイスカウトの活動では、毎年春と夏の二回キャンプに行きます。それから、ビーバー隊(小学校低学年)の時には富士山、今年の春には箱根の金時山へ登山に出かけました。山に登るのは大変だけど、たくさんの植物を見たり虫を探したりと、自然の中でいろいろなことを発見できます。また、活動に参加しているのは、同じ学校の友だちだけでなく他の学校の人もたくさんいるので、新しい友だちが

たくさんできました。今年の5月にプレ植樹祭の準備で宮ヶ瀬に行きましたが、その時も新しい友だちがたくさんできました。まわりを見回すと水や木など自然がいっぱいありました。その中で一日中いろいろな遊びができてとても楽しかったです。これからも、たくさんの自然の中でボーイスカウトの活動を続けたいと思います。



このコーナーでは、県内の「緑の少年団」などの子どもたちの活動などをお伝えしてきました。(当コーナーは今回で終了します。)